

高齢者公益事業部

2030年の自施設のあるべき姿を定めた目標を明らかにするため、2020年から10年間を計画期間とする総合計画の基本構想を2018年度に各施設で策定した。社会情勢やニーズの変化がもたらす影響は地域によって大きく異なる。各施設がそれぞれの地域における社会的・経済的環境を把握し、的確に対応ができるよう、事業部全体で情報を共有し、2019年度には2020年度から2024年度までの基本計画を各施設で定め、将来に備えたい。

2018年度は「標準サービス」（当事業部の運営する有料老人ホームが入居者に提供するサービスの基準）を定めた。2019年度は標準サービスを各施設で試行・検証する。当事業部の有料老人ホームの強みは、健康期から終末期まで多職種・多部門が重層的に切れ目なく入居者にサービスを提供できることである。将来、入居者が要介護状態や終末期を迎えたときに十分なケアを受けられるよう、2019年度はEOL（End of Life）ケアの質の向上を図るため、EOLケアツールを標準化し、第1段階として関東地域の施設で試験的に展開する。当事業部の業務基幹システムであるETS（EDEN TOTAL SYSTEM）は導入後10年が経過している。2019年度内に更新を完了し業務の効率化と職員の負担軽減を実現するとともに、拡張すべき機能を検討する。また、介護職員、管理職に対する海外研修を2019年度も継続して実施する予定である。2015年と比べると、日本は2030年には生産年齢（15～64歳）人口が852万人減少する見込みであり、これまで以上に職員の採用に苦慮する施設が生じると考えられる。施設の機能を維持するため、それぞれの地域の実情に応じ、職員の採用・育成・定着に関して多面的に手立てを講じなければならない。

浜名湖エデンの園の建替工事は、2018年8月に増築4号館が完成した。2018年10月から1・2号館の解体工事を開始し、2020年3月には新1・2号館が完成する予定である。開設後40年を経過する宝塚エデンの園を筆頭に、松山エデンの園、油壺エデンの園の建物更新を具体化させるほか、2011年開設の聖隷藤沢ウェルフェアタウン以降、開設できていない新規施設について2019年度には検討中の計画を1つでも具現化させたい。

また、入居者募集については、2018年度は件数、入園金いずれも予算を上回る実績を残すことができた。エデンの園のサービスを必要とする高齢者に1人でも多く入居いただけるよう、費用対効果を考えながら、新たな募集活動にも挑戦したい。直営7施設の目標数値として、入居契約件数128件、入園金合計39億円、事業部全体の当期活動増減差額6.6億円を目指す。

【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
2. 経営の安定と永続性の確保
3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
 - (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
 - (イ) 標準サービスの具現化
 - (ウ) 公益活動の推進

2. 経営の安定と永続性の確保
 - (ア) 販売対象居室入居率 95%以上の維持
 - (イ) 直営施設の費用の中期的検証
 - (ウ) 環境、耐久性等を考慮した建物・設備更新の計画策定と実施

3. 人材の採用・育成・定着の強化
 - (ア) 人材採用力の向上
 - (イ) 定着への環境づくりによる離職の防止
 - (ウ) 職員のキャリアアップ

4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染症の拡大（集団感染）の防止
 - (イ) リスク対策の強化
 - (ウ) 食事サービスの向上
 - (エ) EQC（事業部内の品質管理システム）の実践
 - (オ) 介護・看護の質を向上させる新たな取り組みの実践
 - (カ) 入居者満足度調査の継続及び改善案の実施

5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
 - (ア) 新規施設開設の検討
 - (イ) 次世代技術の創造

【数値指標】（新規契約のみ）

2019 年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1 番館	藤沢 2 番館	合計
件 数	21 件	27 件	13 件	30 件	20 件	9 件	5 件	3 件	128 件
入居率	92.8%	92.9%	95.1%	94.6%	95.5%	100.0%	99.5%	94.0%	95.0%

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

2018年度は、ようやく待望の増築4号館が完成（2018年9月）し、1,2号館の入居者の引っ越しや事務所の移転、1,2号館さよならイベントなど盛りだくさんの事柄があった。その直後、浜松全域を襲った台風24号による大規模な被害のため、27時間にも及ぶ全館停電に見舞われた。職員一丸となり入居者の安全の確保や非常食の提供、非常電源の燃料確保などを行った。また、近隣施設の支援や協力もあり、大きな被害なく事態を收拾することができた。改めて災害に対する備えの重要性を認識した。その後は、食堂やフロント、西玄関、聖隷三方原病院方面へ向かう渡り廊下など仮設の運用が開始されている。工事は今までのところほぼ工期どおり順調に推移している。仮設期間中は夕食会や初日の出の観賞など一部従来通りの開催が難しいものもあるが、様々な趣向を凝らしできる限り今まで続けてきた行事を行うことを心掛けた。今回増築4号館の完成もあり新たな入居者も増え、入居者総数もようやく増加に転じた。

2019年度は、5月から元号が変わり、10月には消費税増税も実施される。日本も大きな時代の節目を迎える年である。「浜名湖エデンの園1,2号館耐震対策建替工事」も予定通り進捗すれば、いよいよ2019年度末には新1,2号館が完成する予定である。その後2020年度に入り、戻りの引っ越しと残りの工事が実施されればすべての工程が完了となる。長きにわたる建替工事後半に入ったところである。工事期間中ではあるが、引き続き一人ひとりを大切にされたケアの実践を通して、入居時から終末期まで切れ目のないサービスを提供していきたい。パーソン・センタード・ケア（その人らしさを尊重した介護やサービス）に基づくサービスの提供を、園全体で実行していく。また、介護予防への取り組みにも力を入れ、入居者がいつまでも元気で健康でいられる「健康寿命」を延ばす努力をする。食事に関しては、仮設厨房への移行は無事行われたが、次回フルオープン時の食事提供体制の検討を進めていく。入居者募集については、新入居者の増加をめざすと同時にフルオープン時に満室になるよう入居希望の待機者増加に向けた活動に取り組む。

そして職員に対しては、国が進める「働き方改革」に基づき、職場環境の整備や研修計画の見直し、目標面接などを実施することで、超過勤務の削減や有給休暇取得率の増加が進められるような取り組みを行っていく。また、三方原地域の一員として地域における公益的な取組を積極的に行う施設運営を目指す。

【施設理念】

「私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします。」

【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
2. 次世代を担う人材確保と育成
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 入居者が暮らしやすい新しい浜名湖エデンの園づくり

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践

- (ア) 入居時から終末期まで連動したパーソン・センタード・ケアの考え方に基づくサービスの実践と評価
- (イ) その人らしく生活することを支えるための仕組みづくり
- (ウ) アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の理解促進
- (エ) 地域における公益的取り組みのための組織づくり

2. 次世代を担う人材確保と育成

- (ア) 「聖隷理念」「施設理念」の継承と、時代に合わせたサービスが提供できる人材の育成
- (イ) 「働き方改革」に基づいた超過勤務の削減と有給休暇取得率の向上
- (ウ) 働きやすい環境の整備
- (エ) 職員一人ひとりの労働生産性の向上

3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保

- (ア) 職員一人ひとりの募集意識の向上とホスピタリティ（おもてなし）の向上
- (イ) 消費税増税へのスムーズな対応
- (ウ) 施設「事業・運営計画」「予算」の全職員の理解と達成への参画

4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供

- (ア) リスク発生時の対応と予防の取り組み強化
- (イ) 緊急時の対応訓練実施（防犯・安否確認・感染予防対策など）
- (ウ) BCP（事業継続計画）の検証
- (エ) 情報伝達の精度向上
- (オ) コンプライアンス体制の強化

5. 入居者が暮らしやすい新しい浜名湖エデンの園づくり

- (ア) グランドオープンに向けた運用検討
- (イ) 工事に伴う入居者への精神的支援とサービス体制づくり
- (ウ) 見守り体制の充実

【数値指標】

2019 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	262 戸/275 戸		46 戸/57 戸		308 戸/332 戸			
入居者数/定員	318 名/455 名		49 名/64 名		367 名/519 名			
入居率	95.3%		80.7%		92.8%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	16 名	22 名	43 名	7 名	6 名	15 名	2 名	111 名
職員数（常勤換算）	129.8 名							
サービス活動収益	705,000 千円							

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2018年度は、トータルケア（入居から看取りまでの一連のサービス）における個々のサービスの見直しや、業務改善の基礎作りに注力し、一定の成果を上げられた年だと感じている。

2019年度宝塚エデンの園は創設40周年を迎える。この40周年の記念の年を、入居者や職員の「記念」と「記憶」に残る一年にしたい。その為に入居者と職員が共に考え、共に祝えるような充実した内容を年間を通して実施していく。

2018年度から進めているトータルケアについて、入居から看取りまでの一連性を高めるために職員間の連携を強化し、質を向上させるシステム（流れ）を検討していく。またエデンの特徴でもある、健康寿命を伸ばすための疾病予防、介護予防への取り組みは、引き続き強化していく。

また、2019年度からサービスを提供する職員の専門性を高める取り組みを開始する。職員一人ひとりが自らの職務に必要な知識・技術に加え、より専門性を追求したい分野を個々が選択し、その習得した専門性を職員同士が共有することで、より質の高いサービスを提供できるようにしていく。

介護、福祉分野の人材不足が予測を上回るスピードで進んでいる。2018年度はインカムを導入し大きな業務改善が図れたが、2019年度は新しいシステム（新 ETS）を導入し、更に職員の業務の負荷を軽減することで、職員の定着率を上げていく。

2018年度の募集活動は順調で、目標以上の新入居契約数を達成することができた。2019年度は目標数を増やし、全職員の参加による新入居契約獲得の活動を実施していく。期末入居率は93%以上を経営指標とする。

地域における公益的な取り組みとして、障害者の就労機会の創出に取り組んでいく。またそれに加え WAC 事業（健康長寿のまちづくり事業）を推進していく。

【施設理念】

安心と生きがいの創造

【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります。
2. 私たちは、ご入居者とともに5つ星の施設づくりに努めます。
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたりより良いサービスを提供します。
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します。
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます。

【事業・運営計画】

1. 入居者満足の向上
 - (ア) 入居者満足度調査結果に基づく改善の実施
 - (イ) 食事満足度調査の評価向上に向けた取り組み
 - (ウ) その人らしい生活を最期まで支えるトータルケアの実践

- (エ) パーソン・センタード・ケアを支える接遇力の強化
- (オ) 「見える化」の実践による入居者との協同した園運営の実践

2. 職員満足の上

- (ア) 聖隷理念、事業部経営方針及び施設運営方針に基づいた行動計画の策定と実践
- (イ) 職場・職員間の連携強化による働きやすさの追求
- (ウ) 段階的な人材育成による専門性の強化
- (エ) 働き方改革による業務の効率化
- (オ) 最新介護機器の導入による業務負荷の軽減と安全な介護の実践

3. 健全経営体制の維持

- (ア) 全職員が募集活動を推進し、期末入居率 93%以上の確保
- (イ) 附属診療所部門の経営体制強化
- (ウ) 職業倫理・コンプライアンス経営の実践
- (エ) 費用対効果を考慮した経費管理と省エネルギーへの取り組み

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 感染予防対策の徹底と発生時の連携強化
- (イ) 災害や救命時の緊急対応の強化と自主防衛の支援
- (ウ) リスク、苦情への迅速な対応

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 防災・避難計画に基づいた協力関係の確認と連携強化
- (イ) 障害者の就労機会の創出
- (ウ) WAC 事業の推進

【数値指標】

2019 年度期末

	一般居室		介護居室		計		
契約戸数	330 戸 (354 戸)		49 戸 (50 戸)		379 戸 (408 戸)		
入居者数	387 名		51 名		438 名		
入居率	92.0%		98.0%		93.0%		

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合 計
	1	2	1	2	3	4	5	
	9 名	19 名	33 名	26 名	25 名	9 名	8 名	129 名

職員数(常勤換算)	133.3 名
サービス活動収益	950,060 千円

有料老人ホーム 松山エデンの園

2018年度、開園38周年を迎えた松山エデンの園では、継続した入居獲得が維持できる募集活動、安心して生活できる園の環境整備を行った。人生100年時代において高齢者の方が医療やケアだけでなく、生涯学習、社会貢献等を求めている中で、入居募集セミナーや見学会からエデンの園の入居者が元気に充実した生活をサポートできる事を多くの方に知っていただく募集活動ができた。設備環境については、2018年度から引き続き3号館外壁工事や全館放送設備等、安全に対する環境整備を行った。

2019年度においては、園の目標とする施設の将来像である開園50年に向かって園運営を安定させ、安らぎの住まいを継続して提供していく為の基本構想を策定し、各施策を達成する為の計画を示すはじまりの年である。その為には、まず人材確保と質の高いサービス提供ができる職員の育成が重要な位置づけとなる。新しいシステム導入や研修計画を取り入れ、魅力ある職場と職員一人ひとりのキャリアアップに力を注ぐ。入居者には、園内各種行事や安全と安心の各種サービス提供に努め、更なる満足度向上を目指す。設備環境については、コスト管理を含め安心安全な生活を提供できる整備運営に努める。

隣接する医療法人聖愛会松山ベテル病院とは、2018年度人事交流や合同研修等の新しい取り組みを始めた。2019年度も積極的な連携から一層入居者の大きな安心として要望に応じていきたい。

地域住民とは、2018年度地域合同防災避難訓練を共に実施した。地域行事の参加や入居者とのふれあいある活動を実施し、地域に信頼していただく貢献できる施設運営に努めていく。

【施設理念】

『明るく楽しく共に輝いて生きる』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福（しあわせ）づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

【経営方針】

1. 入居募集と経営の安定
2. 人材の確保と育成
3. よりよいサービスの提供
4. 安心安全な施設環境づくり
5. 医療法人聖愛会との連携
6. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 安定した園運営を永続するための入居率の向上
 - (ア) 新規契約戸数 11戸12名
 - (イ) 充実した園の生活や楽しみを知って頂く募集活動への取り組み
 - (ウ) 入居検討者のニーズに応じた受入れ対応（介護棟への直接入居）

(エ) 快適な生活空間となる環境及び設備更新

2. 人材の確保と育成

(ア) 人材の採用と定着への環境づくり

(イ) 職員のキャリアアップができる職員の育成

(ウ) 聖隷理念・施設理念に基づく職員倫理・接遇意識の向上

(エ) コミュニケーション能力の向上

3. よりよいサービスの提供

(ア) 入居者に安心と信頼を感じて頂ける生活サービス支援の実施

(イ) 入居者の健康管理・認知症予防・介護予防活動の積極的支援

(ウ) “おもてなし”の心を大切にされた食事満足度の更なる向上

(エ) 入居者の気持ちを大切にされたターミナルケアの実践

(オ) 職員・職場間の連携と協力

4. 安心安全な施設環境づくり

(ア) 苦情、リスク発見時の迅速かつ連携できる対応

(イ) 災害発生時の対応・意識強化

(ウ) 感染予防対策の徹底と迅速な対応

5. 医療法人聖愛会との連携

(ア) 人事交流等実務面における連携強化

(イ) 入居者へのよりよい医療体制の強化

6. 地域における公益的な取組

(ア) 地域を巻き込んだ防災避難活動、環境保全活動への取り組み

(イ) 地域の医療・介護連携への参画

【数値指標】

2019 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数	102 戸／109 戸		33 戸／35 戸		135 戸／142 戸			
入居者数	120 名／134 名		33 名／35 名		153 名／169 名			
入居率	93.4%		94.3%		95.1%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	22 名	8 名	10 名	8 名	11 名	8 名	8 名	75 名
職員数（常勤換算）	54.2 名							
サービス活動収益	317,250 千円							

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2018年度は2017年来のメディア効果等の余力があり、予算を上回る募集実績となり、多くの新入居者を迎えることができた。改めて見学会、セミナーなど入居者の皆様の協力と職員の奮闘に感謝する。また、2階事務所のフロント周りの充実を図り、各部署にとって、さらなるサービス向上につなげる施設改修を実施した。2018年度に注力すべき取り組みとして、新入居者のソフトランディングを掲げたが、園生活に馴染むことが難しい事例も数件あり、今後の課題となった。

さて、2019年度は新たに「油壺プライド」を事業計画全体のテーマとして掲げ、職員が油壺エデンの園の職員であるという確固たる誇りを持ち、油壺ならではの「安心なサービス提供と質向上」「職員育成」「安定した施設運営」を重視した取り組みを行う。「安心なサービス提供と質向上」については、サービス可視化を推進することにより、業務効率を高めていく。食事部門においては、メニュー改革やメニューアピールを図り喫食率向上に努める。「職員育成」では、さらに女性職員が活躍できる環境づくりを目指し、長時間労働の改善など体制整備していく。役職者が中心となり、職員個々が直面する課題を課題と感じる感性に磨きをかける働きかけを行う。「安定した施設運営」については、入居募集は、2018年度の流れを維持し、さらに入居率向上に努める。新入居者が園生活に馴染めるための取り組みについては、日々の声掛け強化など全職員が意識したい。また、施設整備では、老朽化対策として旧棟より順次改修工事を実施していく。

開園33年目に入り、入居者の年齢層、価値観も様々となり、一人ひとりの個別性をさらに尊重し、皆様が安心して穏やかな園生活が送れるような運営をしていきたい。

【施設理念】

私達は『ひとり一人と ここちよく 共に暮らす』ことを目指します

【経営方針】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
2. 自ら考え課題解決できる職員の育成
3. 安定した施設運営・経営
4. 環境・省エネルギーへの取り組み強化と地域における公益的な取組
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

【事業・運営計画】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
 - (ア) 募集から退去までのトータルサービスの提供
 - (イ) サービスの標準化と可視化
 - (ウ) 入居者ニーズに沿った行事企画の充実
 - (エ) 「美味しいのは当たり前」と言える食事サービスと喫食率向上
 - (オ) 接遇向上のための知識と技術の習得
 - (カ) リスク対策の強化（評価の徹底による再発防止）

2. 自ら考え課題解決できる職員の育成
 - (ア) やりがいのある職場風土の醸成
 - (イ) 各課の情報連携の強化
 - (ウ) 人材採用力の向上
 - (エ) 職員個々の質向上のためのスキルアップ
 - (オ) 他部署の業務を知る機会づくり

3. 安定した施設運営・経営
 - (ア) 園内設備の計画的な改修検討と実施
 - (イ) 全課が募集活動に参画し、入居率 94%（期末）以上確保
 - (ウ) 介護サービスへの適切な移行と介護報酬収益の確保
 - (エ) 介護予防活動見直しによる健康維持増進
 - (オ) 診療所入院ベッドの適正利用
 - (カ) EQC（EDEN QUALITY CONTROL）の活用による生産性の向上

4. 環境・省エネルギーへの取組み強化と地域における公益的な取組
 - (ア) コスト意識を持った省エネルギーへの取組み
 - (イ) 地域貢献活動（環境保全）への参加
 - (ウ) 職場環境整備のための 5S 運動（整理・清掃・整頓・清潔・躰）の継続
 - (エ) 障害者の就労機会を増やすための取組み

5. 災害時の対策、防災教育の徹底
 - (ア) 災害防災・防犯訓練の質の向上
 - (イ) 入居者・職員の防災意識の向上
 - (ウ) 地域と連携した災害協力体制の構築

【数値指標】

2019 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	358 戸／379 戸	43 戸／45 戸	401 戸／424 戸
入居者数／定員	447 名／500 名	43 名／50 名	490 名／550 名
入居率	94.5%	95.6%	94.6%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	16 名	20 名	25 名	20 名	14 名	18 名	17 名	130 名

職員数(常勤換算)	142.5 名
サービス活動収益	1,003,750 千円

介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2018年度は、支援を必要とする入居者の「居場所づくり」に重点を置き、デイルーム増設と共用部などの見直しをすすめた。さらに個別の入居者の希望に寄り添ったケアサービスを提供することに心掛けた。週6回10年以上継続実施している園内体操プログラムについて、蓄積したデータの分析と評価を行い、入居者の健康長寿への影響を学会にて報告することができた。EOL (End of Life) を意識したイベントを開催し、尊厳死や園の看取り、緩和ケアについて考える機会を設けることができた。職員については特に介護・看護の欠員が続いたが、補充をすすめ、厳しい状況を乗り越えることができた。

2019年度は、新しくできた「居場所」や共用部の活用について、これまで以上に入居者の声を反映した運営を進める。2019年1月より食事料金を改定したため、より満足いただける食事の提供とレストランの環境整備を進め期待に応えたい。また、安心できる生活の場として、感染症対策、防犯・防災に注力する。地域における公益的な役割を常に意識し、地域貢献と地域に開かれた施設づくりを目指す。さらに提供するすべてのサービスにおいてエデンブランドを確立することを目的に標準サービスの試行と修正を加えていく。入居率95%以上を維持することを目指し、新規顧客についてはニーズのある浦安市内を中心とした募集活動を継続することと、適正な介護居室への住替えを進めていく。職員については、聖隷理念の浸透とプロとしての技術向上のための教育支援、安心して働ける環境づくりで全職員のスキルアップとモチベーションアップを図っていききたい。

【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

【経営方針】

1. 良質なサービスの追求
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 良質なサービスの追求
 - (ア) エデン・クオリティ・コントロール (EQC) によるサービスの標準化
 - (イ) 入居者満足度調査結果を踏まえた改善の取り組み
 - (ウ) 入居者参画型の楽縁プロジェクトの推進
 - (エ) 入居者の声を反映した楽しめる食事の提供
 - (オ) 標準サービスの試行
 - (カ) EOL (End of Life) ケアツールの導入

2. 働きがいのある職場風土の醸成
 - (ア) 聖隷理念・事業部経営方針及び施設運営方針の浸透
 - (イ) 働きがいのある職場作り
 - (ウ) 職員のキャリアアップの支援
 - (エ) メンタルヘルス向上への取り組み

3. 安心・安全な施設づくり
 - (ア) 安心できる居場所づくり
 - (イ) 感染症発生時の早期対応と感染拡大ゼロ
 - (ウ) リスク回避と発生時の迅速な対応
 - (エ) 防犯・防災の実践的な訓練の実施

4. 安定した施設経営の実現
 - (ア) 各課参画した募集活動の推進～入居率 95%の維持
 - (イ) 環境・省エネルギーへの取り組み

5. 地域における公益的取組
 - (ア) 地域開放型イベントの充実
 - (イ) 地域防災活動の実践
 - (ウ) 地域清掃活動への参加

【数値指標】

2019 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	188 戸／195 戸	26 戸／29 戸	214 戸／224 戸
入居者数／定員	221 名／294 名	27 名／30 名	248 名／324 名
入居率	96.4%	89.7%	95.5%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	14 名	5 名	16 名	8 名	9 名	9 名	5 名	

職員数（常勤換算）	71.9 名
サービス活動収益	437,260 千円

介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

2018年度は、各種ケアサービスの質の向上を目指し、「チームケア」を実践した年であった。「認知症ケア」については、認知症専門ケア加算をきっかけに、これまでの「認知症ケアマッピング」に加え認知症予防活動から進行防止活動等、様々なアクティビティ活動を日常生活に取り入れることにより「一人ひとりに寄り添えるケア」となった。

「エンド・オブ・ライフケア」については、聖隷横浜病院との協力・連携のもと、本人・家族の想いをタイムリーに受けとめ、適宜サービス担当者会議を開催し、継続的な「チームケア」へとつなげることができた。リスク対策の強化については、PDCAを繰り返す体制を維持することで事故発生件数は大幅に減少している。一方、介護保険収益については、入居率は2017年度と同様95%前後で推移したが、平均要介護度が2017年度の3.0から2.5に低下したことで介護保険収益が低下し、予算達成は厳しい状況が続いている。

2019年度は、2018年度と同様に人員の確保が増々重要となる見込みである。「働き方改革」にも積極的に取り組み職場環境の改善を図り、人財定着の強化を図ると同時に職員のキャリアアップについても、専門的知識・技術の取得の他にも、支援を拡大していく予定にしている。

地域連携についても従来園主催のセミナー開催等の活動に加え、地域で開催されている活動にも積極的に参加する。2018年度は全国的にも「災害」の多い一年でもあったため、2019年度は特に「地域防災連携」の強化と災害時を想定しての実践訓練を行い、災害時にも安心して行動できる職員の育成と、入居者や地域の方々の安全の確保を目指していきたい。また隣接する聖隷横浜病院の新外来棟開設に伴い、地域の方々の安全・安楽な通院についても、支援していきたい。

2020年度に横浜エデンの園は開設10周年を迎える。2019年度はこれまでのサービス実践や地域連携活動等を振り返り「地固め」となる一年になるよう、入居率98%を維持し安全・安心・良質なサービス提供を行う。

【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出逢えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

【経営方針】

1. 安全・安心・良質なサービス提供
2. 人財の育成、定着の強化
3. 経営基盤の安定と持続性の確保
4. 地域における公益的な取組
5. 環境・省エネルギー活動への取組の強化

【事業・運営計画】

1. 安全・安心・良質なサービスの提供

- (ア) 現状に即した情報交換・共有とチームケアの充実
- (イ) リスク対策の強化（事故発生後の迅速な検討会議開催と PDCA：感染・苦情相談を含む）
- (ウ) PCC 理念に即したチームケアの定着
- (エ) 入居者に適したエンド・オブ・ライフケアに向けて聖隷横浜病院と医療連携の維持強化
- (オ) 入居者満足度調査の結果の評価・分析による改善への取組

2. 人財の育成、定着の強化

- (ア) 職員同士で感謝等を言語化することによるモチベーション向上活動の継続
- (イ) 「働き方改革」の推進、メンタル不全者発症ゼロ化
- (ウ) 教育システムの実践と職員のキャリアアップ支援（認知症専門研修・キャリア段位認定資格への取得支援等）

3. 経営基盤の安定と持続性の確保

- (ア) 平均入居率 98%の維持（平均要介護度 3.0 以上）
- (イ) 職員全員のコスト意識の強化
- (ウ) 収益構造の改善に向けた取組みの実践
- (エ) 経年劣化を見込んだ計画的な修繕・修理の実践

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域防災連携の構築（近隣高齢者福祉施設等周辺状況の調査、災害支援ナースの設置）
- (イ) 地域貢献への活動の継続（市や区主催のイベントへの協賛、聖隷横浜病院通院への支援）

5. 環境・省エネルギー活動への取組の強化

- (ア) 入居者と協働したエコロジー活動
- (イ) 省エネルギー・エコロジー活動の啓蒙の継続
- (ウ) 事業ゴミの削減による環境保全

【数値指標】

2019 年度期末

	2019 年 3 月末	2019 年 4 月 ～2020 年 3 月	計（退去 8 戸除く）
契約戸数／総戸数	49 戸／50 戸	50 戸／50 戸	50 戸／50 戸
入居率	98.0%	100.0%	100.0%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	1 名	4 名	6 名	11 名	10 名	9 名	9 名	50 名

職員数(常勤換算)	49 名
サービス活動収益	270,630 千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2018年度は、診療報酬と介護報酬の同時改定が実施され、当施設の各事業の運営方針、体制、サービスの質が厳しく評価された一年であった。これまで毎年行われてきた外部監査法人や法人本部による監査の他に、藤沢エデンの園一番館では「第三者評価」、藤沢エデンの園二番館及び藤沢愛光園、在宅部門では「神奈川県介護サービス情報の公表・訪問調査」、「藤沢市ケアプラン点検事業」、「地域ケア会議」が実施され、それらの結果から聖隷藤沢ウェルフェアタウンが成長していくために必要な機能や資源等をチェックすることができた。そこから得られた課題・改善点を、自ら主体的に解決・改善するという視点で、以下2019年度の事業計画を取りまとめた。

開設9年目を迎え、藤沢エデンの園をはじめ施設内の各事業所に求められるニーズは、開設当初と比較して緩やかに、また場面によっては急激に変化している。2019年度は、変化を早期に察知し、適切なサービスの提供が後追いにならないよう体制を整備する。そのためには、高齢者複合施設の強みである多事業・多職種の連携をさらに強化し、そこから得られる多くの知識・技術・アイデアによって利用者サービスの質をさらに高めていく。

これまでも「パーソン・センタード・ケア」「認知症ケア」「看取りケア」には、当施設全体の取り組みとして注力してきたが、2019年度は「End of Life Care」の確立にも積極的に取り組み、他の高齢者施設や在宅事業所のベンチマークとなるようなツールを構築する。

また、藤沢市の地域包括ケアシステムの更なる発展に寄与するため、当施設が有する機能を積極的・効果的に活用頂けるよう、行政、医療機関、他法人に働きかけると共に、社会福祉法人の重要な役割である地域社会への貢献を実践する。聖隷藤沢ウェルフェアタウンの各事業所は、本来の事業活動に加え、地域の自治活動やボランティア活動にも深く関わりを持つことで、地域と当施設がより近い関係でサポートし合える環境づくりを目指す。その他、近年季節や地域を問わず頻発している自然災害に対する体制の整備についても、隣接マンションや行政等とより強固な協力体制を整えることで、当施設だけでなく湘南大庭地区における「安心・安全」の充実を図る。

2019年度も、利用者の皆様が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで生活することの幸せ」と、職員が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで働くことの幸せ」を感じることができるよう、運営を行っていく。

【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

【経営方針】

1. 安全・安心の施設づくり
2. 効率的な運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 地域における公益的な取組への注力（地域・社会とのつながりの推進）

【事業・運営計画】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1. 最善を追求したサービスの提供
2. 「提案・改善・改革」の継続（PDCA/企画力・実践力の強化）
3. その時その場が育成の機会（OJT/接遇の強化）
4. 自然災害に備えた地域との連携体制の確立
5. 地域の行方不明高齢者ゼロ活動への参画

藤沢エデンの園（一番館・二番館）

一番館、二番館、さらには聖隷藤沢ウェルフェアタウン内外の介護サービス事業所や医療機関、また多職種連携により、これまで以上に「安心・安全」を目指した体制を整備する。

【藤沢エデンの園 一番館】

1. 各種サービスの可視化（よりわかりやすく）
2. コミュニケーション力と接遇力の向上
3. 二番館および介護サービス事業所との連携強化

(数値指標)

2019 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	208 戸／209 戸	—	208 戸／209 戸
入居者数／定員	267 名／418 名	—	265 名／418 名
入居率	99.5%	—	99.5%

職員数(常勤換算)	54.2 名
サービス活動収益	411,510 千円

【藤沢エデンの園 二番館】

一番館から住み替える入居者が増加していることから、一番館、在宅サービス事業所との連携体制を構築し、これまで以上に質の高いサービスを提供する。

(数値指標)

2019 年度期末

	2019 年 3 月末	2019 年 4 月 ～2020 年 3 月	計
契約戸数／総戸数	42 戸／50 戸	46 戸／50 戸	47 戸／50 戸
入居率	84.0%	92.0%	94.0%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	0 名	2 名	6 名	7 名	13 名	12 名	7 名	47 名

職員数(常勤換算)	37.9 名
サービス活動収益	196,780 千円

藤沢愛光園

2019年度は、引き続き入居者・利用者への安全と安心のサービス提供に努めると共に、2018年度好評であった家族参加型のアクティビティの実施を継続し、入居者・利用者が楽しみを持ち笑顔あふれる生活ができるようにしていく。経営面では安定した入居率を確保するため、入居・短期入所共に空床期間の短縮を目指す。積極的に他事業所から情報収集を行い、待機登録者を確保し短期入所の利用からスムーズな入居ができる仕組みづくりを行っていく。

人材確保では、職員が業務に専念できるよう体制を見直し、働きやすい環境づくりを目指していく。EPA介護福祉士候補生には、介護福祉士資格取得に向けた計画的な支援を行っていく。

【藤沢愛光園】

1. サービスの質の向上
2. 安定経営
3. 人材確保体制の構築

(数値指標)

	特養入所	短期入所
利用者定員	100 床	20 床
利用者延べ人数	36,234 人	6,954 人
営業日数	366 日	366 日
一日平均利用者数	99.0 人	19.0 人
稼働率	99.0%	95.0%
単価（1人1日あたり）	14,580 円	14,133 円
サービス活動収益	529,400 千円	93,110 千円
職員数（常勤換算）	66.5 人	13.9 人
職員数（常勤換算）	80.4 人	

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

利用者自らが、健康維持・管理の一環として機能訓練に取り組めるよう全職員で支援する。また、個別機能訓練の構築、そのための人材育成を行い地域に選ばれるデイサービスを目指す。

(数値指標)

	介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益
	平均利用者数	月利用者数	年間利用者数	月利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	総合事業(月)	
一日	25.4 件	656.8 件	7,881.4 件	22.3 件	268 件	10,000 円	40,300 円	95,790 千円
半日	3.3 件	85.7 件	1,028.7 件	—	—	6,000 円	—	

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

ケアマネジャーに必要な基礎知識に加えて、困難事例をはじめとした地域のニーズに対応できるスキルを身に着ける。

藤沢エデンの園の利用者の介護度重度化を防止するために、各部署と連携を図る。

(数値指標)

年間請求件数		単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,549 件	636 件	16,780 円	4,405 円	105 件	5,000 円	29,320 千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

2019 年度は地域の関係機関との連携を強化し、様々なニーズに対応できるよう人材確保に努める。また、サービス向上のための人材育成を行いながら、利用者のニーズに柔軟に 대응される体制づくりを目指す。

(数値指標)

介護給付			総合事業		障害者		
平均利用者数	月訪問数	年間訪問数	月利用者数	年間利用者数	平均利用者数	月訪問数	年間訪問数
35.5 名	424.7 件	5,096 件	31.5 件	378 件	27 件	257 件	3,084 件

単価			サービス活動収益
介護給付 (回)	総合事業 (月)	障害者 (回)	
3,600 円	18,900 円	4,400 円	42,780 千円

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

在宅生活をその人らしく暮らせるよう安全・安心な在宅ケアを提供するために、人材育成に取り組む。地域の中で訪問看護のニーズを再考し、地域での連携強化に努め、地域に選ばれる事業所を目指す。

聖隷藤沢ウェルフェアタウン内の各事業所との連携強化に努める。

(数値指標)

平均利用者数	月訪問数	年間訪問件数	単価 (円)	サービス活動収益
99.3 名	617.8 件	7,413 件	9,326 円	69,190 千円

ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2018年度、有料老人ホームの一般居室は高い入居率を確保し、新規契約戸数も予算を上回る事ができた。介護居室については11月に4室の増室工事を実施したことで、住替えが必要とされる方へ円滑に行うことができた。また、2017年度に全面改修を行った男女大浴場濾過設備の更新、図書コーナーのリニューアル等環境整備を行った。入居者の皆様には、「健幸生活」を推進していくにあたり、いきいき生活室の立ち上げと「エデン版地域包括ケアシステム」の運営をスタートすることができた。奈良ベテルホームは介護報酬改定により区分が5段階に分けられ厳しいスターとなった。そのような中で収入増加を図るため10月に訪問リハビリテーションを新規開設し、11月より在宅強化型施設として運用を開始した。在宅部門は河合町や地域事業所との連絡会等に参加することで連携を強化し、さらには地域支援への取り組みに努めた。安心・安全面では地震・火災・防犯訓練を引き続き実施した。

2019年度も新規契約戸数の予算達成に注力し、好調な高い入居率を継続する。施設全体の中心的な取り組みである「健幸生活」や「エデン版地域包括ケアシステム」を利用者、入居者の皆様がよく理解していただけるように情報発信をしていく。また、2年目に入ったいきいき生活室は運営をしっかりと定着させ、内容の見直しや強化を行う必要がある。安心・安全面の取り組みとして、災害対策に力を入れることが必要であり、防災訓練もより実際に即した訓練や、近隣との協力体制も含めて取り組んでいきたい。WAC 第一号施設として継続してきた複合施設の強みを活かし、新たな活動に向けて全職員で取り組んでいきたい。

【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継続とトータルケアサービスの実践
 - (ア) 聖隷理念の浸透と実践
 - (イ) その人らしさを最後まで支えるケアの推進
 - (ウ) エデン版地域包括ケアシステムの強化
 - (エ) 食べる楽しみの追及と安定した食堂運用
2. 安定した経営基盤の確立
 - (ア) 適正な収益確保に向けた加算取得や利用者・患者数アップに向けた取り組み
 - (イ) 複合施設の連携を活かした入居者・利用者ニーズの把握と確保
 - (ウ) 経営指標の可視化共有による経営意識向上

- (エ) エコロジー活動による省エネルギー資源活動への取り組み
- 3. 人財の育成・活用・定着の強化
 - (ア) 働き方改革への取り組み
 - (イ) 採用力強化と定着への取り組み
 - (ウ) 障害者の就労の場を提供し、雇用率2.4%以上を確保
 - (エ) 目標参画・各種ラダーを活用した職員教育の実践
 - (オ) 交換研修・専門研修等への計画的参加と資格の取得支援
 - (カ) 活気ある明るい職場づくりと職員の心身の健康管理への取り組み
- 4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 身体拘束、虐待防止への取り組み
 - (イ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
 - (ウ) リスク分析力の向上による重大事故防止
 - (エ) コンプライアンス意識の向上と職員間で指摘し合える風土づくり
 - (オ) EQC (エデン・クオリティ・コントロール) の定着と実践
 - (カ) 接遇マナーの向上
 - (キ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備
 - (ク) 防災・防犯対策・教育と訓練の強化
 - (ケ) 満足度調査結果の分析と課題解決への取り組み
- 5. 地域における公益的な取組
 - (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
 - (イ) 地域との災害時の協力協定の締結と防災の協力
 - (ウ) 地域における「学び」の拠点となるための活動
 - (エ) 地域支援事業への積極的な参画

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2018年12月1日現在において、入居契約件数400戸（一般居室353戸、介護居室47戸）入居率は97.1%（一般居室97.5%、介護居室94.0%）である。また、入居者の平均年齢は全体で82.1歳である。2019年度も引き続き職場間の連携を密に行い、増室した介護居室を含めて必要な方への適切な住替えを進める。各種ラダーの活用、標準サービス試行導入に向けた取り組みなど、より安心、安定したサービスの提供を目指す。また、いきいき生活室を中心として、エデン版地域包括ケアシステムの更なる認知向上のため、世代間交流などを通して入居者の生きがいがいづくりへとつなげていく。設備整備では、食堂中庭整備と30周年に向けた段階的な大規模植栽整備を実施予定である。また社会情勢により、働き方改革や労働人口の減少に対応した“多様な働き方”を踏まえた運営が今後さらに求められる。

【事業・運営計画】

- 1. 聖隷理念の継続とトータルケアサービスの実践
 - (ア) マイメモリーシートを活用し、その人らしさを最期まで支えるケアの推進
 - (イ) 施設内連携の実践によるエデン版地域包括ケアシステムの運用

- (ウ) 認知症にやさしいエデンづくり
- (エ) 安定した食堂運営の確立と食の満足度向上
- (オ) 介護予防プログラム見直しによる機能維持向上
- 2. 安定した経営基盤の確立
 - (ア) 介護認定が必要な方に向けた適切な介護保険契約の推進
 - (イ) 入居募集活動への協力と連携
 - (ウ) 住替えが必要とされる方への適正な対応
 - (エ) エコロジー活動による省エネルギー資源活動への取り組み
- 3. 人財の育成・活用・定着の強化
 - (ア) 働き方改革への取り組み
 - (イ) 多様な働き方への対応した採用力強化への取り組み
 - (ウ) 障害者雇用に向けた各職場間の連携
 - (エ) 目標参画・各職種のラダーを活用し自ら考え行動できる職員の育成
 - (オ) 他施設・他部署との計画的な交換研修の推進と職場の活性化
 - (カ) ストレスチェックの活用による職場環境整備と風土づくり
- 4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 身体拘束、虐待防止への取り組み
 - (イ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
 - (ウ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による重大事故防止
 - (エ) EQC の定着と実践による各種サービスの標準化の推進
 - (オ) 接遇の向上を目指した職員教育の徹底と推進
 - (カ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の整備
 - (キ) 防災・防犯対策教育と訓練の実施・強化
 - (ク) 満足度調査の結果をふまえたサービスの質の向上
- 5. 地域における公益的な取組
 - (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
 - (イ) 地域との災害時の協力協定の締結と防災の協力
 - (ウ) 地域における「学び」の拠点となるための整備
 - (エ) 地域支援事業への積極的な参画

【数値指標】

2019 年度期末

	一般居室			介護居室				計
契約戸数	355 戸			47 戸				402 戸
入居者数	465 名			48 名				513 名
入居率	98.1%			94.0%				97.6%
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	28 名	28 名	36 名	21 名	10 名	14 名	8 名	145 名
職員数(常勤換算)	99.50 名							※有料老人ホーム部分

◆ 高齢者総合福祉センター

2018年度は、「教養講座」「ホールイベント」「外出企画」いずれもの事業も2017年度を上回る受講・参加者数となることが見込まれる。

2019年度においては、安全・安定した事業継続のための再検証を行う。「教養講座」では、新規講座を実現させる事により、より広いニーズへの対応を図りたい。

◆ 介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2018年度は、4月の介護報酬改定を受けて「在宅強化型老健施設」を目指し、10月には訪問リハビリテーションを新規開設、11月には届け出ることができた。上半期は「在宅強化型老健施設」となるべく改革を行ったことで、利用者数減少、収益減となったが2019年度以降の安定運営に向けての土台作りができた。ケアサービスにおいては、在宅復帰の為に個別ケアの充実を図ることで在宅復帰率を高めることができた。環境面においては、ベッドの更新、棚や洗面、壁紙、照明等大規模な設備改修ができ、利用者にとって更なる快適な環境を提供することができた。

2019年度は、リニューアルされた設備のもと、在宅復帰を目指した「在宅強化型老健施設」としてしっかりと地盤作りを行っていき、収益確保・予算達成ができる事業運営を目指す。

◆ ニッセイ聖隷クリニック

2018年度は診療報酬・特定健診・特定保健指導の制度改定に伴い迅速な対応を行った。入院は積極的な受け入れを行い予算達成、また病床5床の改修を行った。外来については患者数の減少により予算未達となっている。

2019年度は改修した個室には室料差額を算定し、新たな施設基準取得に向けて調整を行う。また、外来では認知症外来を行うことで、主に地域患者数の確保につなげたい。健診は受診者数確保に向けて各種キャンペーンを行っていく。

◆ ニッセイせいでい在宅介護サービスセンターベル・西大和店

2018年度は、総合事業の訪問介護は予算達成できたが、それ以外は入院・施設入所が相次ぎ予算未達であった。特にヘルパー不足が大きく影響し、新規ケースの受入れが困難であった。

2019年度は、採用力を高め人材確保を図ることで、新規利用者の獲得を目指す。また、福祉用具貸与・販売事業の運用、各種利用料金の見直しを図り、事業の安定化を目指す。

◆ 訪問看護ステーション西大和

2018年度は、リハビリ職員の訪問単価の減少はあったが、医療・介護保険共に訪問件数の増加で予算達成できた。ターミナル期の訪問依頼には積極的に応じ、退院前カンファレンスやサービス担当者会議へ参加し情報の共有と連携に努め、利用者のニーズに応じる事ができた。

2019年度は近隣事業所・医療機関との連携をさらに密に取り、新規利用者獲得による事業安定を目指す。

◆ ニッセイせいでいケアプランセンター西大和

2018年度は、介護保険制度改定に対応しつつ、「西和地域7町における入退院連携マニュアル」の活用や地域ケア会議への参加などにより医療・介護・地域との連携を強化したことが利用者数増につながり、予算を達成した。

2019年度は、さらに地域包括ケアシステム構築に向けて関係者と協働し、連携強化とケアマネジメントの質の向上を推進、地域の中で頼りにされる選ばれた事業所運営を目指していく。

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2018年度、入居状況はここ数年の好調を維持し、一般居室の入居率はほぼ100%の状況であった。しかし、開園から21年が経過し、入居者の平均年齢は84.6歳、100歳以上の方2名を含め90歳以上の入居者が110名となり、介護認定を受けられる方も約140名と増加している。2019年度も引き続き提供すべきサービスの内容・量とも増加していくことが予想される。介護保険法では（国民の努力及び義務）として、国民は自ら要介護状態となることを予防することに努めることと記されており、当園のような自立型の有料老人ホームは、介護を必要としない、重度化させない取り組みが使命の一つである。そのためにも入居者一人ひとりの状態を把握し、各職場がそれぞれの専門性を持ってタイミングを逸することなく、必要なサービスを適宜提供していくことが重要である。部門間の連携、情報共有を密にしながら入居者個々の状態に合わせた支援体制の強化に取り組んでいきたい。早期発見、早期診断には入居者の少しの変化を感じとれる感性が大切であり、入居者の日常をしっかりと観察し、気づきのある職員の育成にも尽力していきたい。

また、安心して暮らしていただくため、経営面の安定と人材の確保・定着についても課題として考え、中長期的な計画を明確にしながら実行に移していきたい。

2018年度の目標とした「松戸市しあわせ村構想の次なるステップを具体化する」については、明確な方針が決まるには至らなかったが、引き続き松戸市及び松戸市立福祉医療センター東松戸病院等との連携、情報共有を密にし、計画を前進させていきたいと考える。

以上を踏まえ、以下のような2019年度の重点目標を掲げ、目標達成に向けて取り組みたい。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”とっていただけるような施設づくりを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 経営基盤の安定
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取り組み強化
6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネルギーへの取り組み強化

【事業・運営計画】

◆有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

1. 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上
(ア) 入居検討時から最期まで、その人らしい生活を支えるシームレスなサービス体制の運用
(イ) 入居者一人ひとりのライフスタイルに合わせた食生活支援

- (ウ) 部門間情報共有の強化と各システムの情報統合への取り組み
- (エ) 入居者参画型の企画・行事の充実（園行事の見直しと充実）
- (オ) 関わりの少ない入居者へのアプローチ（セカンド含む）

2. 人材育成と連携

- (ア) 聖隷理念（隣人愛精神）の継承
- (イ) 気づきと行動力のある専門職の育成
- (ウ) 不適切なケア、接遇の知識・技術の向上と定着
- (エ) 新入職員へのサポート体制の構築
- (オ) 他課との連携を意識した業務整理と新たなサービスへの取り組み
- (カ) お互いを認め合い、やりがいのある職場風土の醸成

3. 経営基盤の安定

- (ア) 全職員による新入居者募集（園に関する知識の向上）
- (イ) 人材の確保・定着への取り組み
- (ウ) 一時介護室およびクリニック病床の適正利用
- (エ) 選ばれる食堂に向けた取り組み強化（喫食率の向上）
- (オ) 多様な働き方に対応できる労働環境の整備

4. リスク管理体制の強化

- (ア) 感染予防対策の強化
- (イ) 園内における防災体制の見直し
- (ウ) セキュリティ及び防犯の強化
- (エ) I/A の活用による事故の再発防止（対策立案能力の向上）
- (オ) コンプライアンスの徹底
- (カ) メンタルヘルス予防活動の推進

5. 地域における公益的な取組

- (ア) WAC 施設としての取り組みの更なる充実
- (イ) 地域に求められる中期計画の策定
- (ウ) エデンの園のノウハウの還元（地域における公益的な取組）
- (エ) 社会的責任への取り組みの充実

【数値指標】

2019年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	312戸／315戸	36戸／37戸	348戸／352戸
入居者数	390名／419名	37名／37名	427名／456名
入居率	99.0%	97.3%	98.9%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	35名	18名	29名	21名	11名	15名	10名	139名

職員数（常勤換算）	118.14名	※有料老人ホーム部分
-----------	---------	------------

◆診療所「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

園の入居者の平均年齢は 84.6 歳となり高齢化がさらに進んできている。それに伴い、より幅広い疾病への対応が求められ、今まで以上に各職種の専門性が必要となってきた。そのため、チーム医療の実践は当然のことながら、さらなる個人のスキルアップの取り組み強化にも努めていきたい。経営面においては、入院外来ともにここ数年は患者数が横ばいとなっており、収益全体でも微増にとどまっている。今後は外部患者や住民健診の受け入れ拡大も視野に入れ、収益増を図っていくことが、将来を見据えた安定した経営のためにも必要であると考えている。

また、2019 年度も安定した医療サービスの提供を行うために、組織内の連携を大事にし、リスクの軽減を図りながら、入居者・利用者へ安心と信頼を提供していきたい。そのために、以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組んでいく。

1. 医療・看護サービスの充実

(ア) 各課との連携を強化し、各職種の特性を活かしたチーム医療の実践

(イ) 入居者の定期健康診断の受診率向上

(ウ) 看取り看護の充実

(エ) 地域への貢献、地域医療連携の充実

2. 人材育成と連携

(ア) 専門職としてのスキルアップ

(イ) 園内教育、研修制度の変革

(ウ) 離職防止への取り組み

3. 経営基盤の安定

(ア) 病床稼働率の向上

(イ) 外部患者（外来・住民健診）受入れ拡大の検討

(ウ) 次期診療報酬改定への対策検討

4. リスク管理体制の強化

(ア) IA（レポート）システムの有効活用

(イ) 電子カルテシステムの活用

(ウ) 感染拡大防止策の徹底

(エ) 働き方改革に対応した労務管理

2019 年度数値指標

【診療部門】

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	55.0名	4,450円	241日
入院部門	17.0名	11,500円	366日

【検診部門】

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	760名	840名
職員検診	192名	

◆高齢者福祉総合センター「ニッセイ松戸アカデミー」

ニッセイ松戸アカデミーでは、入居者と近隣にお住まいの方が、趣味活動などを通じて、生きがいと仲間づくりをしていただくことを目的としている。2019年度も多くの入居者及び近隣にお住まいの方が参加できる季節のイベントや各種教室、大ホール・エントランスロビーでのコンサートを引き続き開催していく。また、「エデンの園のノウハウを地域にお住まいの方にも還元できる活動」についても2018年度以上に実施していきたい。

1. エデンの園のノウハウを近隣の皆様に還元できるイベントの企画・立案
2. 地域交流につながる広報活動の充実
3. 入居募集の支援

◆ニッセイエデン・ヘルパーステーション

2019年度事業計画

1. 地域が求めている訪問介護支援への要望を情報収集し、期待に応える事のできる事業展開を引き続き実施する
2. 2018年度に関係を新たに築いた介護支援事業所からの利用者の増加を狙い営業活動を行う
3. 入居者へのベル対応の拡充に注力していく
4. 障害者支援サービス、多様化する介護保険サービスに対応できるよう、介護員のスキルアップ及び積極的な研修参加を実施する

2019年度重点施策

求められる事業所

- *事業拡充による収支の安定
- *ベル事業の拡充
- *専門性を持った職員の育成
- *地域との連携強化による地域貢献

2019年度数値指標

【介護保険】

	利用者数	単価
介護給付（日平均）	25.0名	4,100円
予防給付（月利用者数）	14.0名	18,000円
有償（入居者）サービス（月利用者数）	10.0名	8,000円

営業日数=310日（月平均26日）

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2018年の厚生労働省からの発表では、平均寿命が男性81.09歳、女性87.26歳、総務省からの報告では日本の高齢化率が28.1%といずれも過去最高を記録した。急速に変化していく超高齢社会の中で、働く人口の減少、医療・介護の問題など、明日見らいふ南大沢においても様々な課題に直面していくことが予想される。今後も社会情勢にアンテナを高くし、安定した施設運営に努めていく。

さて、明日見らいふ南大沢を見てみると、入居者の平均年齢は、2017年同時期と比較し0.4歳高くなり85.6歳（2018年11月末）となった。平均年齢の上昇に伴い、何らかの支援を必要としている入居者も増えてきている。入居から看取り期までのどの段階においても、心地よい生活を支援できるよう、人材確保、職員の質の向上に努め、今後も入居者が安心して暮らせる支援体制の充実に取り組んでいく必要がある。

2019年度は、健康長寿の延伸にむけた取り組みの充実のため、現在行っているに企画に加え、新たなプログラムの実践に取り組んでいく。そして、楽しみの時間が増えるよう、行事の見直しと新たな企画や講演会の開催を行う。また、2018年から取り組んでいる、生活サービスフロントが真の窓口となり“自立した生活から支援が必要となる移行期”の方に早期に気づき、適切な時期に適切な支援を提供できるよう、職員の資質向上に努める。そして、よりよい支援を提供するための取り組みのひとつとして、元気なうちに、将来受ける可能性を視野に入れた“医療・介護への希望や意志”を確認するための体制づくりに取り組んでいきたいと考える。

【施設理念】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 安心・信頼できる施設運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 東京都住宅供給公社と連携した施設運営

【事業・運営計画】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
 - (ア) 「健康長寿」に繋がるプログラムの定着と新しいプログラムの開発
 - (イ) 介護・生活利便サービスの充実に向けた取り組み
 - (ウ) 要介護未認定入居者や困難事例に対する支援の実践
 - (エ) 入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり
 - (オ) 入居者の意志を聞き取る体制づくり

2. 人材の育成

- (ア) 役職者のマネジメント能力の向上（問題発見・解決能力、判断力、組織性・専門性の両立、動機づける力、承認できる力）
- (イ) 自信につながる専門領域の習得
- (ウ) 各課の役割を理解し、連携強化を図れる職員の育成
- (エ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり
- (イ) 高齢者あんしんセンターとの繋がりによる専門職としての活動の機会づくり
- (ウ) 入居者の経験や知識を活かした地域貢献活動の場所づくり

4. 環境・エコロジー活動への取組

- (ア) 入居者と共同・協働による活動（ペットボトルキャップ回収等）
- (イ) 環境美化活動の継続（周辺ゴミ拾い活動）
- (ウ) 省エネルギーへの取り組みの継続

5. 入居者募集

- (ア) セミナー他、公社募集業務への協力と連携
- (イ) 募集事務所と連携して新規入居者のスムーズな受入れ
- (ウ) 職員全員が入居者募集担当であるとの自覚を持って入居検討者を迎える

【数値指標】

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	295/317 戸		44 戸/53 戸		339 戸/370 戸			
入居者数/定員	332 名/482 名		44 名/53 名		376 名/535 名			
入居率	93.1%		83.0%		91.6%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	19.1 名	18.1 名	26.2 名	16.1 名	11.8 名	16.8 名	10.1 名	
職員数（常勤換算）	108.67 名							
サービス活動収益 ※	122,000 千円							

※クリニック南大沢施設診療所のみ